

## それぞれの成分特性に合わせて最適処理。 ミヤマの総合燃焼技術です。

廃棄物中には、焼却以外の方法によっては処理の困難な物質なども少なからずあります。焼却を行ううえで、それぞれの物質が持つ化学的性質や混合の状態に応じた前処理が必要です。またダイオキシン類の発生問題を見るまでもなく、燃焼プロセスにおける温度管理等についての高度な技術とノウハウを要します。このような燃焼プロセスの処理技術に関して、ミヤマは独自の研究と検証を重ねており、その成果が中野工場の燃焼プロセスに活かされています。

## 社会的な要請にお応えして フロン破壊処理に取り組んでいます。

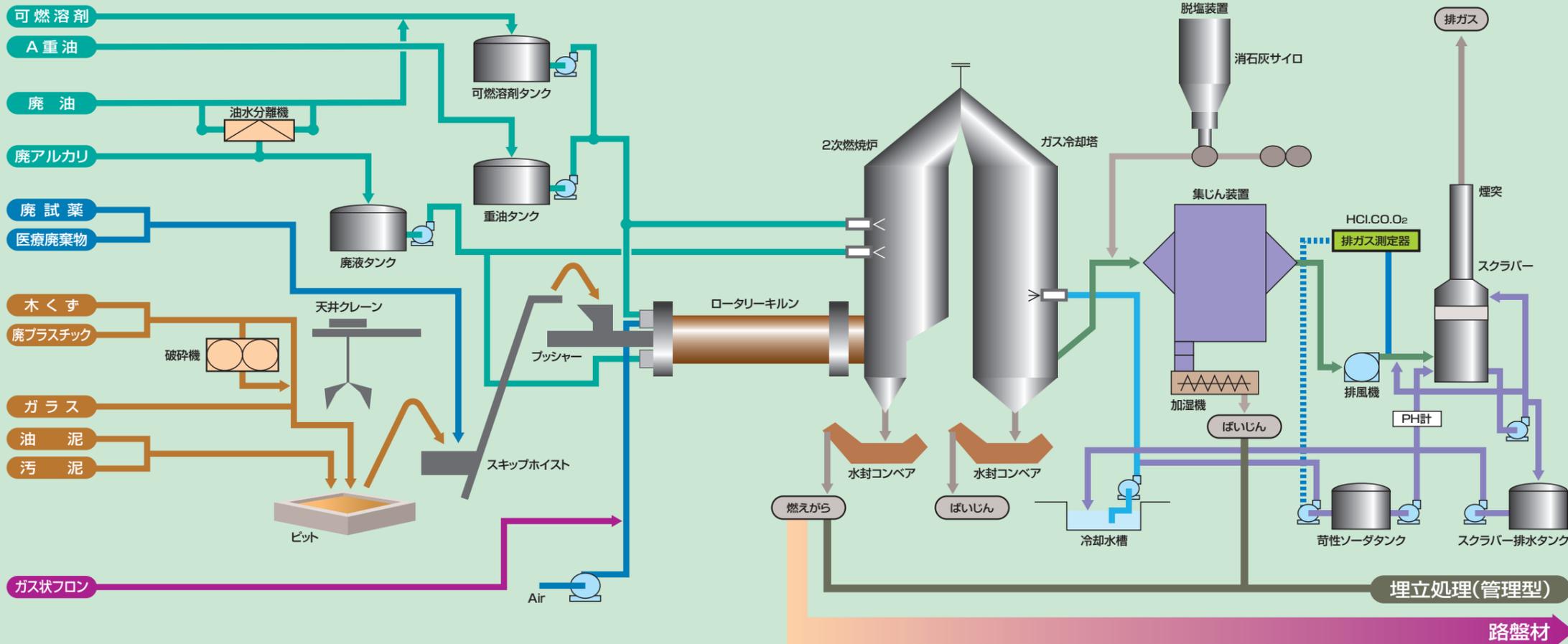
ミヤマでは、フロンの回収・破壊処理をお引き受けしています。独自の燃焼技術により、いち早く安全な処理を実現。受け入れ態勢を確立しました。すでにフロン類の多くは、生産・供給が停止されていますが、冷却・冷房・洗浄をはじめとしてさまざまな分野で使用されてきており、それら機器の廃棄に伴うフロン類の回収・処理ニーズは今後さらに高まるものと見られています。



①投入口／高発熱量の廃油は工場で調整後、助燃剤として使用します。固形物は安定燃焼のために、調整を行う必要があります。油泥ピットで廃棄物同士を混合し、熱量、水分等の調整を行った後に、炉内にプッシャーで投入します。ただし、事故防止のため、反応性のある廃棄物は混合せず、直接炉内に投入します。

## 処理・リサイクルフロー

### 焼却



### 破碎



### 油水分離 詰替混合



②キルン&二次燃焼炉／キルン出口のガス温度は800～850℃、二次燃焼室出口で850～900℃にて運転します。また、同時に空気量(酸素量)の制御も必要となります。



③集じん装置／ガス冷却塔に水を噴霧し、ガスを急冷します。そこに消石灰を投入し、酸性ガスを中和し、その反応生成物(ばいじん)を集じん装置で捕集します。



④スクラバー&制御室／集じん装置で除去しきれなかった酸性ガス等を湿式スクラバーで吸収し、浄化されたガスが煙突から排出されます。ここで、水を使用しているため、煙突からは常に水蒸気が出ています。制御室では、装置、排ガスの状態を常に監視しています。